

総会及び各分科会等における「検討の視点」を踏まえた審議の進め方について

- 前回総会（5/31）において、野依会長より、各分科会等においても「検討の視点」を踏まえた審議をお願いしたい旨発言。その後、6月8日に、各分科会等の長に対して同様の趣旨を記載した会長名の手紙を「検討の視点」の確定版とともに送付。
- 各分科会等の事務局に対して、別添1の様式を送付し、分科会等において議論を進めていただく旨を依頼（近日中）。これらを踏まえ、各分科会等において、「検討の視点」を資料として配付し、事務局から説明を行うとともに、それを踏まえた議論を進めて頂くよう要請（6月以降順次）。

（参考）分科会等の開催状況等

<人材委員会>

- ・第53回（6/9）

今後の調査審議事項について議論。その際、「検討の視点」を事務局から説明し、それを踏まえた検討を要請。

<国際委員会>

- ・第3回（6/15）

科学技術の国際活動に関する今後の課題について議論。その際、「検討の視点」を事務局から説明し、それを踏まえた検討を要請予定。

<学術分科会基本問題に関する特別委員会>

- ・第3回（6/17）

学術振興上の重要な取組について議論。その際、「検討の視点」を事務局から説明し、それを踏まえた検討を要請予定。

<基本計画推進委員会>

- ・第1回（7月目途）

基本計画に基づく、各分科会等での「主な検討事項」について議論、決定。その際、「検討の視点」を参考にしつつ、検討を行う旨を「主な検討事項」の中に明記。ここでの議論の結果等を各分科会等に伝達し、検討を要請。

- ・第〇回（秋冬頃目途）

基本計画推進の観点から各分科会等における審議状況について報告、それを踏まえて議論。その際、「検討の視点」に関する検討状況についても、適宜、意見を聴取することを検討。ここでの議論の結果を各分科会等に伝達し、検討を継続。

- 来年1月開催予定の次々回総会において、『「検討の視点」を踏まえた各分科会等における審議状況』を報告（別添2）。

（※ それ以降の扱いについては総会での議論をみて判断。）

東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の検討の視点を踏まえた各分科会等における審議状況について（〇〇分科会）

第5期に設置された基本計画特別委員会では、S（科学）とT（技術）に、I（イノベーション）を加えたSTIへの転換が提言された。しかしながら、我が国観測史上最大の地震やそれに伴う原子力発電所事故等による未曾有の災害を踏まえ、新たにR（リコンストラクション（再建）、リフォーム（改革））を加えたSTIRを政策の基調とすべきである。

こうした考えのもと、今後、科学技術・学術審議会においては、東日本大震災の現状を踏まえ、科学技術・学術の観点から真摯に検証を行う。その上で、国家的危機の克服と復興、環境変化に強い社会基盤の構築への貢献を視野に入れ、我が国の存立基盤である科学技術・学術の総合的な振興を図るために必要な審議を進めていく。

その際、総会及び各分科会、部会、委員会等においては、これまで以上に「社会のための、社会の中の科学技術」という観点を踏まえつつ、以下の視点到留意し、検討を行う。特に、科学技術・学術の国際連携と、自然科学者と人文・社会科学者との連携の促進には十分配慮することとする。

（総論）

1. 東日本大震災についての科学技術・学術の観点からの検証

震災下において、科学技術・学術の観点から、適確に機能した面、機能しなかった面、想定が十分でなかった面はどのようなところか。

これらの検証により判明した震災からの教訓や反省を踏まえ、今後の科学技術・学術政策を進めるにあたって、改善すべき点、取り組むべき点、新たにルール化すべき点は何か。また、研究開発を推進するための環境や体制を変化に強いものにする方策として何が必要か。

（視点1）

2. 課題解決のための学際研究や分野間連携

社会が抱える様々な課題の解決のために、個々の専門分野を越えて、様々な領域にまたがる学際研究や分野間の連携がなされているか。特に、自然科学者と人文・社会学者との連携がなされているか。

また、社会が抱える様々な課題を適確に把握するための方策は何か。課題解決のための学際研究や分野間連携を行うためにはどのような取組が必要か。

さらに、これらを支える人材育成のための方策として何が必要か。

(視点2)

3. 研究開発の成果の適切かつ効果的な活用

様々な研究開発の成果が、適切かつ効果的に結集され、社会が抱える様々な課題の解決に結びついているか。

また、研究開発の成果が、課題解決のために適切かつ効果的に活用されるためには、どのような取組が必要か。

(視点3)

4. 社会への発信と対話

研究者、研究機関、国等が、科学技術・学術に関する知見や成果、リスク等について、情報を受け取る立場に立った適切な表現や方法で、海外を含めた社会へ発信し、対話できているか。

また、社会への発信や対話を一層促進するとともに、国民の科学リテラシーを向上するためにどのような取組が必要か。

(視点4)

5. 復興、再生及び安全性の向上への貢献

被災した広範な地域・コミュニティの様々なニーズや、復興、再生にあたって直面する問題をきめ細かく捉えているか。また、それらを踏まえ、科学技術・学術の観点から、復興、再生、安全性の向上及び環境変化に強い社会基盤の構築のためにどのような貢献ができるか。その際、国土のあらゆる地域で自然災害への備えが求められる我が国の地学的状況を踏まえることが必要である。

(視点5)

「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の検討の視点」
を踏まえた各分科会等における審議状況

1. 経緯

- 第36回科学技術・学術審議会総会において、我が国観測史上最大の地震やそれに伴う原子力発電所事故等による未曾有の災害を踏まえ、新たにR（リコンストラクション（再建）、リフォーム（改革））を加えたSTIRを政策の基調とすべきとの考えの下、「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の検討の視点」（以下「検討の視点」という）を決定した。
- 本決定を受け、各分科会等において「検討の視点」で示された5つの視点に留意し、検討を進めている。現時点での審議状況は以下のとおり。

2. 分科会等における審議状況について

（1）東日本大震災についての科学技術・学術の観点からの検証

震災下において、科学技術・学術の観点から、適確に機能した面、機能しなかった面、想定が十分でなかった面はどのようなところか

これらの検証により判明した震災からの教訓や反省を踏まえ、今後の科学技術・学術政策を進めるにあたって、改善すべき点、取り組むべき点、新たにルール化すべき点は何か。また、研究開発を推進するための環境や体制を変化に強いものにする方策として何が必要か。

-（△△分科会）
-（□□分科会）
-（××委員会）

（2）課題解決のための学際研究や分野間連携